

第2回審議会での主な意見と対応（案）

（平成18年6月30日開催）

NO	意見	対応
1	<p>市民が富山市に住むことに誇りをもつことが大切である。そのため、富山市に住むことの意味を行政から市民へのメッセージとして示すことも必要ではないか。</p>	<p>1頁 総合計画策定の趣旨説明文9～11行目を次のとおり改めます。</p> <p>また、今後、本市が持続的に発展し続けていくためには、時代の大きな変化に対応しながら、本市がもつ多彩な魅力を最大限に発揮し、<u>市民が誇りをもって暮らすことができるまちづくりを進めていくことが大切です。</u></p>
2	<p>様々な働き方を社会が認めるようになる必要があるのではないか。</p> <p>また、情報化はそれぞれを下支えする役割を果たしており、そのことを表現できないか。</p>	
3	<p>37頁の協働の内容が薄い。多様な主体の力を結びつけることによって、新しい力を生み出す協働についての内容が必要である。</p>	<p>37頁の次の箇所を改めます。</p> <p>1 いきいきと輝く市民が主役の社会の実現の説明文を次のとおり改めます</p> <p><u>市民の視点に立った市政運営のもと、新しい協働の仕組みづくりに努めます。</u></p> <p>また、<u>すべての人が尊重され、個性と能力が十分に発揮できるまちづくりを推進します。</u></p> <p>&lt;市民主体のまちづくり&gt;の説明文を次のとおり改めます。</p> <p>市民と行政のパートナーシップを強化し、市民の視点に立った市政運営に努めます。</p> <p><u>また、それぞれの地域におけるさまざまな交流・連携の仕組みを発展させながら、さらに新たな協働の関係が生み出されるよう努めるとともに、地域の再生や活性化に向けた、市民主体で行う公益的な活動を支援します。</u></p>
4	<p>外国人労働力をどう考えるか記述が必要ではないか。</p>	<p>外国人労働力の活用については国の政策であり、市独自の対応は困難と考えております。</p> <p>市としては、国際交流の推進や、外国人にとっても魅力あるまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。</p>

5	都市機能をいかに回復していくかが大きな課題である。コンパクトなまちづくり、まちなか居住など富山市のリーディングプロジェクトとなるものを市民にどのようにわかりやすく掲げるか工夫すべきである。	各分野とも基本計画にて具体的な施策内容を示し、その中から主な事業を選択し、市民にわかりやすく説明できるよう工夫します。
6	高齢者、中山間地域、中小企業など弱い部分にどう焦点を当て具体的にどのように安心感を与えるかが地方行政の役割である。	ご指摘の趣旨も踏まえ、基本計画で具体的な内容を検討していきたいと考えています。
7	基本構想の内容に、もう少し富山市らしい特徴を出すべきでないか。	8頁の(3)富山市を取り巻く状況に産業や森林など、富山らしさの記述を加え、別紙のとおり改めます。
8	主要課題のまとめ方が一般論であり、地域の歴史・祭りなどの文言を具体的に表現した方がよいのではないか。	
9	国際化への対応(環日本海地域における富山)について触れるべきでないか。	12頁まちづくりの主要課題(7)の説明文6行以降を次のとおり改めます。  今後は、「街の顔」となる富山駅周辺や中心市街地の高次都市機能を一層集積させるとともに、 <u>環日本海地域などとの交流を促進し、中核都市としての拠点性を高める必要があります。</u>
10	子どもの教育について、普遍的な価値感を教えることについての記述が必要でないか。	子どもの教育については、基本計画で具体的な内容を検討していきたいと考えています。
11	重点となる取り組みの実施時期を明示すべきでないか。	基本計画で中期(5年間)の事業を示します。
12	「時代の潮流」、「まちづくりの主要課題」、「まちづくりの目標」のつながりをわかりやすく説明するフロー図が必要である。	今後、市民への説明やPRを行うこととしており、フロー図を含めてわかりやすい資料の作成を検討したいと考えています。

第4回安心部会での主な意見と対応(案)

(平成18年7月5日開催)

NO	意見	対応(案)
1	16頁に多様な価値観と表現されているが、普遍的価値観を身につける施策はないか。	子どもの教育については、基本計画で具体的な内容を検討していきたいと考えています。
2	16頁「まちづくりの目標」の説明文をこれまでの議論を反映させ、もう少し書き込めないか。	
3	37頁 第5節の「新しい富山を創る協働のまち」について、だれが主体的に行うのか、担い手が見えにくいのではないか。	第2回審議会での意見と対応(案)のNO3参照
4	まちづくりにとっては、地域の役割が基本であり、特に福祉や教育の分野における重要性を表現できないか。	<p>12頁まちづくりの主要課題(9)の説明文の3行以降を次のとおり改めるとともに、地域が担う役割についての具体的な内容は、基本計画でどのように表現できるか検討したいと考えています。</p> <p>今後は、これらの組織・団体をはじめとして、市民との協働により福祉や環境、防犯・防災などのさまざまな分野を担う人づくりや、<u>家庭、学校、地域の連携をより深め、子どもたちを健やかに育てる</u>など、地域全体で支えあう仕組みづくりを進め、地域の力を高める必要があります。</p>
5	資料「施策の具体的方向(例)」のうち、 - 1 - (2)の「学校給食・健康管理の充実」を - 3 「健康で健全に暮らす元気なまちづくり」の中に一括して掲載できないか。	施策の具体的な取り組みは、他の施策と重複する場合がありますので、基本計画において、(再掲)の形で双方に記載したいと考えています。
6	21、22頁「4誰もが自立し安心して暮らせるまちづくり」と「5共に生き共に支えるふれあいのまちづくり」をひとつにできないか。	<p>4は、高齢者や障害者の支援が必要な人に対する施策を取りまとめたものです。</p> <p>5は、地域との連携による福祉環境づくりの視点で施策を取りまとめたものです。</p>

第4回安全部会での主な意見と対応（案）

（平成18年7月6日開催）

NO	意見	対応
1	カタカナの表記の後に（ ）で日本語の表記をしているものと、その逆のものがある。市民にとってわかりやすい表現に統一してほしい。	<p>11頁（4）説明文中「リデュース（発生抑止）」を「リデュース（発生抑制）」に、「リサイクル（再利用）」を「リサイクル（再生利用）」に改めます。</p> <p>26頁 &lt;循環型まちづくりの基盤整備&gt;の説明文中「リデュース、リユース、リサイクル」を「リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）」に改めます。</p> <p>32頁 1 出会いと発見に満ちた魅力ある観光のまちづくり の説明文中「ホスピタリティ」を「おもてなしの心」に改めます。</p> <p>33頁 説明文中「（ホスピタリティ）」を削除します。</p> <p>その他説明を要すると思われる用語について用語集を作成します。</p>
2	27頁<森林機能の再生・強化>の記述内容について、森林の再生を図るためには林業の振興が重要であり、加筆すべきでないか。	<p>森林整備については、重要な課題であると認識しており、27頁では、「4暮らしの安全を守る森づくり」で、市民参加による森林保全活動や意識啓発への取り組みについて記載しています。</p> <p>また、産業振興の観点からは、36頁の とやまの魅力と活力を築くものづくり・しくみづくり の中で7行目の「地産地消の推進」の後に、「地場産材の活用・促進」を加え、林業の振興について加筆することとします。</p>
3	<p>25頁 2 人と自然にやさしい安全・安心なまちづくり について</p> <p>安全で快適な生活を確保するためには、自然との調和が大切であることから、説明文に「自然と調和した」を加筆してはどうか。</p>	<p>ご意見のとおり、説明文1行目「図るとともに、」の次に「自然と調和した」を加えます。</p>

第4回活力部会での主な意見と対応（案）

（平成18年7月10日開催）

NO	意 見	対 応
1	36頁<とやまの未来を拓く新しい価値の創造>の「新しい価値の創造」は産業をイメージしにくい。他の表現に出来ないか。	36頁 <とやまの未来を拓く <u>新しい価値の創造</u> >を <とやまの未来を拓く <u>新産業・新事業の創造</u> >に改めます。
2	富山らしさを表現する流れを作るために、8頁「(3)富山市を取り巻く状況」を独立させ、内容に富山らしさを加えることは出来ないか。	8頁の(3)富山市を取り巻く状況に産業や森林など、富山らしさの記述を加え、別紙のとおり改めます。

第4回潤い部会での主な意見と対応（案）

（平成18年7月11日開催）

NO	意見	対応
1	<p>市の中心地区と地域の生活拠点地区についての記述はあるが、中山間地域などの生活拠点地区の周辺の地区をどうしようと考えているのかわかりにくいので不安を感じる。</p> <p>中山間地域など地域の生活拠点地区の周辺地域についての記述が必要でないか。</p>	<p>福祉や教育、生活環境の整備などは市中心地区や地域の生活拠点地区だけの施策でなく、市民の皆さんが市のどこに住んでいてもサービスを受けられることを前提に進めています。</p> <p>これらのサービスを将来にわたって維持していくためにも、中心地区や地域の生活拠点地区の機能を強化する必要があると認識しています。</p> <p>中山間地域などの振興については、28頁「地域の個性と特性を生かしたまちづくり」や、29頁「中山間地域の振興」に記載しています。</p>
2	<p>12頁の地域力の強化について、もう少し力を入れた書き方はできないか。</p>	<p>12頁まちづくりの主要課題(9)の説明文の3行以降を次のとおり改めるとともに、地域が担う役割についての具体的な内容は、基本計画でどのように表現できるか検討したいと考えています。</p> <p>今後は、これらの組織・団体をはじめとして、市民との協働により福祉や環境、防犯・防災などのさまざまな分野を担う人づくりや、<u>家庭、学校、地域の連携をより深め、子どもたちを健やかに育てる</u>など、地域全体で支えあう仕組みづくりを進め、地域の力を高める必要があります。</p>

宮口委員の意見と対応（案）

（平成18年7月7日提出）

NO	意見	対応
1	1 頁について、自然のみが強調されている感あり。県を代表する経済の中心でもあることを明記すべき。	1 頁説明文 4 行目の「自然に恵まれた魅力あふれる都市です。」を 「自然に恵まれ、 <u>また、県都として経済などの諸機能が集積した魅力あふれる都市であります。</u> 」に改めます。
2	3 頁（1）の中の「労働力人口の減少」は単純な数だけの印象。経済に貢献する人的パワーの低下の意味が分かるように。	3 頁（1）説明文 3 行目「労働人口の減少をもたらします。」を「経済活動を維持していくための労働力の低下をもたらします。」に改めます。
3	4 頁（3）の前半と後半がつながっていない。単一市場化に対抗するには、地産地消を、含む支え合う地域社会が必要	4 頁（3）説明文中 6 行と 7 行の間に 「このような中で、新産業の創出や付加価値の高い製品の開発、新分野への転換などにより国際競争力を高めることが求められています。」 を挿入し、 同 7 行目の 「このような経済発展などに伴い、」を 「また、経済発展などに伴い、」に改めます。
4	6 頁 地勢 肥沃な平野にも触れるべき。「川で結ばれた文化圏」は実態があるのか。	6 頁 説明文中 「大小の河川が中山間地域、平野部を経て」を 「大小の河川が中山間地域を経て、 <u>肥沃な平野部を形成し</u> 」に改めます。  同説明文中 「古くから川で結ばれた文化圏を形成してきた都市です。」を 「主要な河川の上流から下流までが一体となった都市です。」に改めます。
5	7 頁 歴史的特性 歴史の歩み では？工業団地の造成は富山の大きな要素	
6	9 頁 すでに人口減少過程に入っているのに、14 年の推計で語りだすのはおかしい。	9 頁 人口の見通し の説明文 1 ～ 3 行目を次のとおり改めます。 「日本の総人口は、厚生労働省の全国人口動態統計によると、平成 17 年から減少過程に入ったとされています。」

7	11頁 まちづくりの主要課題に、支え合う協働社会といった社会的センスが現れていない。	
8	16頁 まちづくりの目標に、新しい時代の産業の育成の意味が現れていない。協働のまちづくりの意味がはっきりしない。後段の37頁が極めて弱い。	16頁の「4 個性と創造性に満ちた活力あふれるまち」の説明文1行目の「富山の魅力を高め、」の次に「文化・観光・産業などの分野において、」を加えます。
9	18頁 ここと25頁で二つの安心を使い分けているのか。	25頁の安心は、安全なまちづくりに向けた1つの政策で、生命や健康などの安全を守るための規制やハード面の整備により得られる安心という意味で使っています。 18頁は上記以外の安心です。
10	22頁 「共に支えるふれあいのまちづくり」とあるが、ふれあってから支えあうことが育っていくのがものの順序。	
11	34頁 伝統的な町並みにもふれるべき。	34頁<伝統的文化・文化遺産の保全、活用>の説明文1行目の「まちづくりを進めるため、」の次に「伝統的なまち並み、」を加えます。
12	36頁 かつての工業団地の時代とは違う、エコなど、新しい時代を感じさせる表現が欲しい。大型工場跡地の再利用も富山では大きな問題。	26頁の<循環型まちづくりの基盤整備>に含まれていると考えています。
13	37頁 協働では多様な主体のパワーを結びつけることが見える表現を。これは新しい時代の産業の育成にもからむ問題。	37頁の次の箇所を改めます。 1 の説明文を次のとおり改めます <u>市民の視点に立った新しい協働の仕組みづくりに努めます。</u> <u>また、すべての人が尊重され、個性と能力が十分に発揮できるまちづくりを推進します。</u>  <市民主体のまちづくり>の説明文を次のとおり改めます。 市民と行政のパートナーシップを強化し、市民の視点に立った市政運営に努めます。 <u>また、それぞれの地域におけるさまざまな交流・連携の仕組みを生かしながら、新しい協働の関係が生み出されるよう努めるとともに、地域の再生や活性化に向けた、市民主体で行う公益的な活動を支援します。</u>

## 別紙

### (3) 富山市を取り巻く状況

本市は、平成17年4月に富山地域7市町村の合併によって誕生した新しい市であり、今後、持続的に発展していくためには、新市の一体性の確保に向けた取り組みを推進していく必要があります。

本市は、海岸部から山岳地帯まで広大で豊かな自然に恵まれた都市であり、また、それぞれの地域の特性を生かして、農業や商工業などのさまざまな産業が発展してきているとともに、特色ある地域の歴史・文化の魅力にもあふれています。

しかしながら、平野部においては、自動車への依存や持ち家志向が高いことなどを背景として、市街地が拡大し続け、人口密度の低い、薄く広がった市街地を形成し、中心市街地の空洞化が進んでおり、また、中山間地域においても、過疎化が進行しております。これらのことから、地域におけるコミュニティ機能が低下してきており、今後の人口減少、少子・超高齢社会の進行により、その傾向が一層進むことが懸念されます。

一方、本市の面積の約7割を占める森林については、林業の衰退などにより荒廃が進み、森林機能が低下し、土砂災害などの発生が危惧されます。

このようなことから、本市においては、中心市街地の活性化と地域の生活拠点地区の機能強化による市全体の活力の底上げが必要であり、それぞれの地域の特性を踏まえて中心市街地と周辺地域・中山間地域が互いに交流し、連携を深めることで、市全体がバランスよく発展していく必要があります。

また、本市は、県都として、居住・就業・娯楽などの市民生活に必要な機能が集積しているとともに、鉄道・道路・空港・港湾などが整備され、国内外への交通の結節点となっており、産業・経済・文化・観光などの面で、日本海側有数の中核都市として地域をリードする役割が期待されています。

今後は、北陸新幹線の開業による大量輸送と時間短縮効果により、人・もの・情報の交流が活発になることから、行ってみたいまち、暮らしたいまちとして人々から選ばれるよう、豊富で多彩な資源を富山らしい魅力として一層高め、国内外に広く発信し、観光の振興や広域的な経済活動の展開を積極的に促進する必要があります。